

報告事項 1（周知・報告）

南河内地域における中高一貫校設置に向けた検討について

南河内地域における中高一貫校設置に向け、別紙のとおり検討を進めることを報告する。

平成 26 年 6 月 20 日

南河内地域における中高一貫校設置に向けた検討について

1. 検討を進める理由

大阪府内で今後著しい人口減少が予想される南河内地域において、併設型中高一貫校を設置することにより、南河内全体の教育力を高めるとともに、地域活性化を図るという構想が本年3月、府立富田林高等学校及びその関係者から提案された。(添付資料参照)

本提案においては、併設型中高一貫校を設置して先進的英語教育や理数教育を重視した学校をめざすなどの具体的な教育プランについて、高い熟度での検討がなされている。

府教委としても、本提案の併設型中高一貫校設置により、課題解決力等のこれからの社会で求められる力をじっくり育むなどの教育的効果が期待できること、また、当該校が地域のいわば「リーディングスクール」として周辺の公私立の学校に刺激を与え、南河内地域の学校が切磋琢磨して互いの教育力を高めるなど地域の活性化も期待できることから、設置に向けた検討を行うものである。

2. 検討項目

- (1) 教育方針について
- (2) 設置形態について
- (3) 設置場所について
- (4) 設置時期について
- (5) その他

3. 検討体制

府教委事務局教育振興室高校再編整備課の職員及び府立富田林高等学校の教職員からなるプロジェクトチームを設置する。

4. 検討スケジュール

プロジェクトチームにおいて検討を進めたうえで、本年秋頃を目途に、設置に関して教育委員会会議に諮ることを目標とする。

「富田林中高一貫校（併設型）」（コミュニティスクール）の設立についての要望書

富田林高校は、113年の歴史を通じて、南河内の中核的な教育機関として、地域社会を支える多数のリーダーや世界で活躍する多くの人材を輩出してきました。この富田林高校を、地域のニーズと新しい時代の教育課題に応える新しいタイプの公立学校するため、地域人材で構成する学校運営協議会が学校経営に関与するコミュニティスクールにするとともに、「中高一貫校」に改編することを要望します。

この構想に至った理由は以下の三点です。

1. 「地域の活力は地域の教育力」です。世界的な視野で考え地域を活性化できる人材養成は地域の教育課題でもあります。歴史と伝統のある富田林高校には、地域の活性化の一翼を担い、南河内全体の教育力を高める使命があると考えます。しかし、年を追うごとに世の中の動きが激しくなっている中で、機敏に世界の動きや地域のニーズに応えた教育内容を提供していくには、学校内部の人材だけでは限界があります。だからこそ、地域に根差している多彩な人材により学校の運営に関与する仕組みが必要であると考えます。
こうした観点から、地域人材で構成する学校運営協議会が学校経営に関与するコミュニティスクールへの改編が必要です。
2. 21世紀は、「知識基盤社会」と呼ばれ、OECDも「思慮深さ」や「課題解決力」を重視した新しい学力観を提起しています。
しかし、現実には高校入試を乗り越えるためには塾依存の暗記中心型学習となっており、生徒たちには、興味関心の幅が狭く、受動的で夢や意欲を持ってない傾向が顕著となっています。そして、このような生徒の多さが、「思慮深さ」や「課題解決力」を育む際の高校段階での深刻な課題となっています。人生で一番多感で活力に満ちたこの時期に、高校入試を考慮することなく、じっくりと学習に取り組むことのできる中高6年間の一貫した教育が求められており、府立高校でも中高一貫校(併設型)の試みがとれます。
3. 大阪における高校改革により、受験生にとっての選択幅拡大と学校間の切磋琢磨により活性化しましたが、その反面、受験生の大阪市内への中心部志向がすすみ、全体として、交通不便地である周辺の伝統校にとって厳しい状況を生んでいます。従来から大阪における教育環境の「南北格差」もあり、大和川以南には、国公立の併設型中高一貫校は一枚もありません。こうした観点から、府立で最初の併設型中高一貫校は、周辺地域の活性化策のひとつとして、まずは南大阪地域に設置することが最適と考えます。

（私たちが求める学校像・生徒像）

「知育、徳育、体育」をバランスよく育てます。体験を大事にして、広い世界に興味関心を持ち、主体的で冒険心のある、「Think globally, act locally」に考え、行動できる骨太の人材を育成します。

（学校の運営と形態）

大阪府立の併設型中高一貫校（学校運営協議会が学校経営に関与するコミュニティスクール）とします。

（教育の三本柱）

1. **富田林を先進的英語学習地域に育てる中心になります。そのために民間の教育力を導入します。**
 - ① 中高連携した「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を重視した学習システムを構築し、将来的には市内の小中学校に還元して「英語教育先進地域」構築に寄与します。
 - ② ユネスコスクールとして、海外の留学生を積極的に受け入れます。行政と協力して、寺内町などの歴史的観光遺産を生かして海外から訪問者を受け入れ、国際交流に強い地域を作る取組につなげます。
 - ③ 赤坂清隆元国連事務次長の支援を得て、「国連の課題」に学ぶ事を学習の中に生かして、多様な世界を知り世界的視野で平和と人権について考えさせます。
 - ④ SGHS（スーパーグローバルハイスクール）の認定をめざします。
2. **理数教育に強い学校にします。成果を地域全体に広げます。**
 - ⑤ 中学段階から「実験・観察プログラム」で、地域の自然環境を活用し、興味津々で科学的な姿勢や思考力を身に付けさ

せませす。

- ⑥ 高校段階での「発明・発見プログラム」で、より高い知的好奇心を刺激し、探究的に課題に取り組み、情報処理及び発信の力を育てます。
 - ⑦ 千里ライフサイエンス振興財団等の各種団体や大学との連携で将来に向けた高い目標を見つけさせます。
 - ⑧ 中高一貫校としてのSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の認定をめざします。
3. **中高6年間を貫く「探究」と「貢献」をテーマにした「総合的な学習の時間」を設定して、社会とかかわる体験を通じて、論理的な思考力と行動力を身に着けた、自発性があり個性豊かな「人間」を育てます。**

平成26年3月

富田林高等学校同窓会会長

同窓会副委員長

同窓会教育基金委員長

富田林高等学校学校協議会会長

富田林高等学校校長